

生活実感・労働実感にもとづく

会社回答に対する声

6,000円程度の基本給改定では、税金等が増えているのでまだ足りない。入社して1年目の人にも魅力がない会社になっている。福利厚生なども課税対象になり、大企業に入った期待感はない。

平均賃金引上げ額が3.78%とあるが、ベアだけで見ると1.84%。物価上昇は対前年4%を超えていることから、この金額で賄うことはできない。会社の引上げたという主張は、ベアも定昇も会社判断とする、若しくはベアという考えを無いようにする会社の意図なのではないのか。

会社は、人材流出に危機を感じていない。平均勤続年数も短くなっている。魅力がなくなっているのではないか。会社の目標設定の甘さもあるのでは？働き度が賃金に反映されていない。

主務職、主幹職のプラスの意味が分からない。格差を付けるべきではない。係職の働きと主務以上の働きは違うのかと思う。そこが面白くない。納得できない。若手を手厚くしている感は全くない。職場で一生懸命働いているのは指導職・係職ではないか。

入社4年目くらいまでは特別手当があるが、現実に入社5年目以上の係職・指導職が職場を支える存在となっている。その5年目以上の方たちのやる気が無くなったら、職場は大丈夫ではなくなる。大多数を占めるその社員を蔑ろにして、モチベーションが賃金だけではないとはよく言えるものだ。

乗務員は手当が上がっていないが制度見直しや、ジョブなど会社に貢献している。乗務率が上がって疲弊度は上がる一方、給料・手当は上がらない。これは、「安全を軽視しますよ」と会社が出しているようなものではないか。

会社回答への率直な声を教えてください！